

申請者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	池田 隆英
調査研究課題	保育者の力量形成に向けたeラーニング・プログラムの開発					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	池田 隆英	保健福祉学科 准教授	教育学、社会学	調査研究の企画、実施、分析、総括	
	分担者	楠本 恭之	岡山短期大学 准教授	教育学	実地調査の補助、実地調査の分析・考察	
調査研究実績の概要	<p>本学特別研究助成費による「保育実践のフレームワークの基礎的研究」（平成23年度）、「保育実践のフレームワークの理論的・実証的研究」（平成24年度）、「子どもの理解と援助のフレームワーク」の汎用性・有用性の検討」（平成25年度）、「子どもの理解と援助のフレームワーク」を活用したアクションリサーチ」（平成26年度）という過去の研究成果を踏まえて、「子どもの理解と援助のフレームワーク」（以下、「フレームワーク」）を用いて保育・教育の調査を行った。</p> <p>保育・教育の実践過程の研究は、研究者の個別の観点や実践者の個別の経験に基づく。その結果、実践過程を分析する「共通の枠組み」が構築される志向性が極めて薄く、実践が適切であると言える「実践の成立条件」を明示できていない。そのため、分析する際の「共通の枠組み」を構築し、「実践の成立条件」を実証的に検討する必要がある。一方、本研究は、保育・教育の実践過程を分析する「共通の枠組み」を提供し、「なぜ適切なのか」「なぜ成功なのか」といった「実践の成立条件」を明示できる。</p> <p><u>こうした問題意識に立ち、上記の一連の実践的な研究成果があることから、かねてから現場での行政指導や講演活動において、「フレームワーク」研究の独創性が注目された。そのため、行政指導や講演活動の多くの依頼を受け、地域からの期待の声に応えるべく、本学の地域貢献の一環として活動を行ってきた。本年度は、こうした地域貢献活動の延長として、「査定と評価」の方法を幼稚園教育や保育所保育に応用し、「保育者の力量形成に向けたカンファレンス」のプログラム開発を行った。</u></p>					

<p>調査研究実績の概要</p>	<p><u>(1)保育職務の「査定と評価」の項目の作成</u> これまでの研究成果は、「真正の評価 (authentic assessment)」論に基づく「査定と評価」と親和性が高い。「真正の評価」論は、学習者や実践者が、自らの意味を構成しながら実践を行う過程を重視し、基準そのものを取捨選択したうえで自己の評価を行い、関係者と共同の作業を進める。「査定 (assessment)」とは対象となる学習者や実践者の「知っていること」についての情報を収集すること、「評価 (evaluation)」とはその査定の内容を解釈ないしは判断することである。ただし、「真正の評価」論は、保育職務の「査定と評価」に役立つ具体的な項目ではない。そこで、本研究では、まず、これまでの研究成果に基づく「査定と評価」の項目を作成した。</p> <p><u>(2)ハイブリッドな「査定と評価」の基準を作成</u> これまでの研究成果を踏まえて、指導法の原理を集約した「リーフレット」を作成する。また、定量的調査に基づき、保育者が実施すべき事項の「チェックリスト」を作成する。さらに、定性的調査に基づき、保育者が実践を振り返る目安となる「観察シート」を作成する。ただし、「真正の評価」論で指摘されてきたように、こうした一般的な事項の原案を個別の組織に適用できるわけではない。そのため、こうした一般的な事項の原案を個別の組織に適用できるように、項目を取捨選択し、各園の実情に沿った基準を作成し、多角的な「査定と評価」を行った。</p> <p><u>(3)力量形成のためのカンファレンスを実施・検証</u> 「査定と評価」の項目は、保育現場でのカンファレンスに利用される。「リーフレット」は、カンファレンスの一環として、指導法の原理を改めて研修する素材となる。「チェックリスト」は、数値化された情報によって、組織や個人の状況を量的に分析することが可能となる。「観察シート」は、観察された情報によって、個別の実践の場面や変化を質的に分析することが可能となる。PDCAサイクルによって職務を維持・向上させていくことができるよう、実践の計画から改善に至る道筋で保育者が力量を高められるカンファレンスの実施・検証を行った。</p> <p><u>(4)保育職務のeラーニング・プログラムを開発</u> 「査定と評価」の項目は、保育者がインターネット上で学習できる、eラーニングのプログラムに移植される。研究代表者は、すでに20年間、eラーニングのソフト (StarQuiz®) を利用した同様のシステムを構築・運用してきた。保育者が質の高い力量形成を行うには、カンファレンスという対面的な場だけでなく、継続した自己分析が重要な鍵を握る。そこで、保育者自身が力量をチェックする環境を提供し、研究代表者らがそのデータを精緻に分析し、保育者にフィードバックすることができるよう、eラーニングのプログラムを開発した。</p> <p><u>以上の調査研究を実施することによって、保育・教育の実践過程において、合理的で明示的な意味を見出すことができ、研究者や実践者が実践の質的向上に向けた研修を行うなど、地域貢献の一助となった。また、保育者の専門性の向上は施策上の喫緊の課題であることから、「フレームワーク」研究は、この課題に対応する基礎的データを提供することができ、本学の保育者養成課程の特色となりつつある。</u></p>
<p>成果資料目録</p>	<p>PDF版 (CD収納) 『子どもの理解と援助の「フレームワーク」－臨床的な保育のためのリーフレット』</p>